

平成29年度「遊びのプログラム等に関する専門委員会」 今後のスケジュール (案)

社会保障審議会児童部会
第10回遊びのプログラム等に関する専門委員会
平成29年11月13日

資料
2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
遊びのプログラムの開発・普及								<p>【第10回】 11月13日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度遊びのプログラム実施児童館の取り組みに関する分析・検証について ・平成29年度児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究について 			<p>モデル事業の経過報告等について(案)</p>	
児童館の機能及び役割の検討								<p>11月28日 (予定)</p> <p>第1回ワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の児童館のあり方検討について 			<p>【第11回】 ●月●日</p> <p>児童館G1見直しに関する論点整理と具体的項目の検討について(案)</p>	
										<p>●月●日</p> <p>第2回ワーキング</p>	<p>【第12回】 ●月●日</p> <p>児童館G1見直し案のまとめについて(案)</p>	
モデル事業												<p>報告書</p> <p>↑</p> <p>平成29年度児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務／全国児童館でのプログラム普及・マニュアル作成</p> <p>↑</p> <p>委員会設置会</p> <p>事業者契約 (競争入札)</p>
調査研究												<p>報告書</p> <p>↑</p> <p>平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究</p> <p>↑</p> <p>・「児童厚生員の処遇や資格の現状と課題に関する調査研究」</p> <p>↑</p> <p>・「児童館を中心とした社会的ニーズへの対応及び必要なネットワーク構築に関する調査研究」</p>

遊びのプログラム等に関する専門委員会

児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務一式 事業計画書

1 事業概要

(1) 調査の概要と目的

児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務（以下、「本事業」という）では、児童館等が自ら企画開発又は改良した「遊びのプログラム」をモデル的に実施して地域における開発・改良・普及プロセスを調査し、その健全育成上の効果や効果的实施方法等を分析して、「遊びのプログラム」の実施マニュアルを作成します。

これにより、これからの地域の児童館等が果たすべき機能及び役割について検討するうえでの参考とすることを目的とします。

(2) 企画・検討委員会の設置

本事業の実施に際しては、有識者による企画・検討委員会を設置し、専門的助言を受けつつ行います。委員会の運営については、以下の通りです。

① 正式名称

児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に関する企画・検討委員会

② 設置目的

専門的な見地から助言を受け、本事業を適切に運営し、十分な成果をあげることを目的として設置します。

③ 設置期間と開催回数

設置期間 平成 29 年 05 月から、平成 30 年 03 月まで

開催回数 7 回程度

④ 検討内容

- ・「遊びのプログラム」としてモデル的に実施するプログラムの選定
- ・トライアル実施児童館の選定
- ・モデル的に実施した「遊びのプログラム」の効果検証
- ・「遊びのプログラム」の実施マニュアルの作成
- ・本事業の調査研究報告書の作成

⑤ 企画・検討委員

企画・検討委員会は、学識経験者、児童館従事者・管理者・経験者等から委嘱する 5 名程度の委員で構成します。

(委員)

植木信一 (新潟県立大学 人間生活学部子ども学科 教授)

安部芳絵 (工学院大学 准教授)

柳澤邦夫 (栃木県上三川町立上三川小学校 校長)

阪野大介 (愛知県児童総合センター 主査)

(3) 事業内容

本事業は、児童館等における「遊びのプログラム」の開発・改良及び実施効果の検証のために、以下のプロセスを追って実施します。

① 「遊びのプログラム」、及びプログラムアドバイザーの選定【～6月】

本財団が研修・研究・出版等の事業を通じて蓄積してきた児童館等における様々な実践プログラムや、一般公募により優れた「遊びのプログラム」を選定します。

具体的には、

(ア) 発達障害など子どもの特性を踏まえつつ、障害のあるなしに関わらず共に成長していく取組を推進する活動プログラム

(イ) 虐待を受けた子どもや養育が困難な家庭で育った子どもの自らの育ちを支援する活動プログラム

(ウ) 中・高校生を対象にした学習支援、居場所づくりを行う活動プログラム

などを含め、児童館ガイドラインに示された活動内容と照らしつつ、プログラムの種類・対象年齢が偏ることのないよう、多様なプログラムを選定します。

プログラム数は20程度を予定し、最終的には厚生労働省と協議の上で決定します。

「遊びのプログラム」を選定した後、同様のプログラムを既にも実施していて健全育成上の十分な効果をあげている児童館等から、当該プログラムの詳細に通じた児童厚生員等に本事業のプログラムアドバイザーを委嘱します。委嘱数はプログラム数と同様、20程度を予定しています。

【プログラム例】

No.	内容	プログラム アドバイザー
1	防災段ボールキャンプ …防災意識の向上を目的に段ボールで家を作って、児童館内で1泊する。宿泊(緊急避難)の持ち物は子どもが自分で考えて準備する。当日それをみんなで確認し、危機管理について学びあい、相互に防災意識を高めあう。	神戸市 六甲道児童館
2	イクメン支援プロジェクト …クッキング、スポーツ、ボードゲーム、立体工作など、父親が子どもとともに参加し、存分にに関わりあい、父親ならではの力を発揮して楽しめるプログラムをシリーズで実施する。父親の仲間作りを進めるとともに、主体性を引き出すことを目的とする。	愛知県 児童総合センター

3	多文化交流クッキング …日本で生きにくさを感じている外国にルーツを持つ母親等に「皮から作る餃子講座」等、得意メニューで親子クッキングの講師をお願いする。それを通じて、子ども同士の関係も改善され、外国にルーツを持つ子どもも含めて仲間づくりが促進されることを狙う。	燕市 小中川児童館
4	子ども食堂 …貧困対策と同時に子どもたちの自立支援を目指して、大人と子どもと一緒に料理して食べる「食堂」イベントを実施する。あわせて、余った食材を集めて有効利用するフードドライブや、子どもたち自身によるお弁当クッキング等、食育に関連するプログラムも実施する。	松本市 寿台児童館
5	親子ふれあい交流 …乳幼児親子向けの遊びのプログラムを定期的に開催する。それと並行して、時には託児を実施し母親だけを対象に子育て講座も実施する。さらには、中高生と赤ちゃんのふれあい交流も行う。これらの活動を通じて母親同士の関係を深め、自主的な子育てサークルにまで発展させる。	京都市 ももやま児童館
6	自由ラジオ …子どもたちのコミュニケーション力を育むことを目指して、「自由ラジオ局」を開局する。高校生ボランティアと職員がサポートしつつ、企画、取材、台本作り、BGM選び、ナレーション、CM作りと、すべての過程を子ども主体で取り組む。	いわて子どもの森
7	野遊びプログラム …周りに自然がなくても、自然のことに詳しくなくても、簡単に組み合わせて子どもたちの興味・関心を引き出す一連の野遊びプログラムを実施する。具体的には、落ち葉を料理に見立てる「森のレストラン」や、屋外で句会を開く「ネイチャー俳句」等の遊びを実施する。	新潟県立 こども自然王国
8	乳幼児親子のスキンシップ遊び …児童虐待の予防を意識して、乳幼児親子の絆を深めるとともに、母親同士の仲間づくりを進めるために、様々なふれあい遊びやコミュニケーション遊びを実施していく。具体的には、ベビーマッサージやわらべ歌、リトミックなど。	えひめこどもの城
9	異年齢での運動遊び …子どもたちの運動不足を解消するために運動遊びを実施する。狭い児童館のホールでも、異年齢が同時に存分に身体を動かして楽しめる「しまおに」や、チーム対抗で夢中になって遊べる「エスケン」などを日常的に実施していく。	仙台市 田子児童館
10	地元商店街で模擬アルバイト体験 …地元の商店街の協力を得て、子どもたちに模擬アルバイト体験をさせる。アルバイトも子どもたちにとっては日常と異なる遊びとなる。活動を通じて子どもたちは、仕事の厳しさや責任、社会の仕組み等を学ぶ。	八王子市 浅川児童館

② トライアル児童館の選定【～7月】

遊びのプログラムをモデル的に実施する児童館を 20 箇所程度選定します。20 箇所の選定にあたっては、これまでの研修会への参加状況や児童館活動の充実度を考慮し、トライアル児童館として十分に任務を果たせる児童館を選定します。また、児童館の規模、運営主体、所在地域の状況等を考慮し、多様な地域から選定されるようにいたします。

③ 事業説明会の開催【9月12日】

プログラムアドバイザー、並びにトライアル児童館の担当者（2名程度）を召集し、事業説明会を開催します。（この事業説明会は仕様書にありませんが、トライアル児童館等に本事業の趣旨を十分に理解し意欲的にかかわってもらうとともに、関係者が相互にサポートし合える関係作りを目的として、独自に提案する項目です。）

- ▶ 名称：児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究事業説明会
- ▶ 期日：平成 29 年 9 月 12 日（火）～13 日（水）（予定）
- ▶ 会場：国立オリンピック記念 青少年総合センター 国際会議室（予定）

事業説明会では以下の内容を実施します。

- ・ 本事業の説明…本事業が調査研究の一環であり、最終的にマニュアルを作成し、児童館の発展に寄与するものであることを理解してもらいます。
- ・ 遊びのマルシェ（以下、マルシェ）…各プログラムアドバイザーに自分たちが取り組んだプログラムを紹介してもらいます。紹介は、実施マニュアルのプロトタイプ（原型）を示しつつ、その実施方法や注意点、ねらいや事業効果等を含めて、プレゼンテーション、ポスターセッション、ワークショップ等の形式で紹介してもらいます。
- ・ このマルシェは児童館の最新プログラムをワークショップ形式で学べる「研修」として、全国から参加者を募集します。定員は 100 名程度（予定）。参加費は無料。交通費は各参加者に自己負担してもらいます。
- ・ マルシェ参加児童館のうち、今年度中に遊びのプログラムに取り組むところには、本事業の協力児童館になってもらい、マニュアルの精度を高めるためのアンケート等の協力をしてもらいます。

日程・スケジュール

【9/12（火）】

時間	実施内容	詳細
09:00	(準備開始)	
12:00	受付開始	
13:00	開会あいさつ 事業説明 ・この事業の経緯とねらい ・トライアル児童館の役割 ・経費の取り扱いについて Q & A	トライアル児童館、及びプログラムアドバイザーに対して、この事業の全容を、分かりやすく伝えます。
15:00	トライアル児童館、及びプログラムアドバイザーの紹介・交流	実施する「遊びのプログラム」ごとに担当者同士の交流を深めてもらいます。
17:00	マルシェ準備	
19:00	終了	

【9/13（水）】

時間	実施内容	詳細
09:00	マルシェ受付開始	
10:00	マルシェ開会セレモニー 全体プレゼンテーション ・モデルプログラムの紹介 ・専門家によるアドバイス	プログラムアドバイザーにモデルプログラムを簡単にプレゼンテーションしてもらいます。 プログラムの展開方法等について、ソーシャルワーク的な観点から専門的な助言を頂きます。
12:00	昼食	
13:00	ポスターセッション ワークショップ マルシェ開会セレモニー	プログラムアドバイザーに、マニュアルのプロトタイプを示しつつ、モデルプログラムについて個別に紹介し、質問等にも答えてもらいます。 プログラムアドバイザーにモデルプログラムをワークショップの手法で紹介してもらいます。
17:00	終了	

④ 遊びのプログラムの実施【9月～12月】

トライアル児童館には、原則として月1回程度、概ね7回程度、遊びのプログラムをモデル実施してもらいます。また、マルシェ参加者の中から協力児童館を募集し、マニュアルのプロトタイプに基づいて遊びのプログラムを実施してもらいます。

（選定に当たっては厚生労働省と協議しつつ行います。）

実施期間中、必要に応じてプログラムアドバイザーにトライアル児童館を訪問してもらい、遊びのプログラムに関する適切なアドバイスをもらいます。

⑤ 児童への効果の検証とマニュアルの作成【11月～2月】

トライアル児童館と協力児童館には、マニュアルのプロトタイプに対する意見をもらうとともに、参加者アンケートを実施して、児童への効果についての検証を行います。これらを踏まえて、一般の児童館等で遊びのプログラムを効果的に実施するためのマニュアルを作成します。

(4) 事業計画

月	育成財団	プログラムアドバイザー	トライアル児童館
5	事業実施準備 ・「遊びのプログラム」原案作成 ・プログラムアドバイザー案、及びトライアル児童館案の作成 ・企画検討委員案の作成		
6	企画検討委員会 ・「遊びのプログラム」決定 プログラムアドバイザー委嘱 トライアル児童館選定		
7	企画検討委員会 全国に「マルシェ」の案内を広報 遊びのプログラム公募		
8	企画検討委員会 ・アンケート等検証方法の検討	マルシェへ出展等準備開始 ・マニュアルプロトタイプ ・プレゼン ・ワークショップ、ポスター	
9	事業説明会 ・説明会、マルシェ実施 協力児童館決定	説明会、マルシェ参加 ・ワークショップ等実施	説明会、マルシェ参加
10	企画検討委員会 ・「遊びのプログラム」の効果検証	トライアル児童館へ視察・指導	遊びのプログラム実施
11	企画検討委員会 ・マニュアル検討開始	トライアル児童館へ視察・指導	遊びのプログラム実施
12	企画検討委員会 ・トライアル児童館等へ視察	トライアル児童館へ視察・指導	遊びのプログラム実施
1			モデル事業実施報告書提出
2	企画検討委員会 ・マニュアル作成 ・調査研究報告書作成		
3	調査研究報告書 提出		